

## 令和 5 年 第 3 回定例会一般質問（発言順）

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
1	横 田 喜 世 志	<p>1. 会計年度任用職員の処遇改善について</p> <p>2. 物価高騰対策の追加支援について</p>	<p>令和5年第1回定例会の一般質問で会計年度任用職員の処遇を伺ったときは、臨時職員との差がないよう、ほかの自治体より良い待遇をしているとのことであった。基本給の部分は別として、各種手当の支給については、正職員と同様の支給にすべきではないか。</p> <p>日本全国民は物価高騰に困窮している。令和5年第2回定例会で、国や道、町の財源で、①低所得世帯支援給付金給付事業、②子育て世帯生活支援特別給付金給付事業、③八雲町子育て世帯給付金給付事業を行った。しかし、電気料金、燃料価格の高騰や食料、日用品の値上げが続き、各家庭の家計を圧迫している。これまで行った3つの事業以外の対象世帯にも対策すべきと思うがどうか。</p>	町 長

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
2	関口正博	1. サーモン養殖事業について	<p>令和元年12月よりスタートした、当町における北海道初となるトラウトサーモン海面養殖試験事業は、5年間の試験期間を経て令和6年からの『北海道二海サーモン』の本格事業化に向けた準備が進められている。北海道二海サーモンプロジェクトを、当町における水産業の更なる発展へとつなげるためには、この事業に対し、より理解を深めることが重要と考え、以下の点について質問する。</p> <p>① 熊石漁港内海面養殖試験における令和5年水揚げ分の生残率の大幅な低下についての検証は進んでいるのか。</p> <p>② 道南をはじめ、道内各地域においてサーモン養殖事業の取り組みが行われるとともに、全国各所においてサーモン大規模陸上養殖事業の計画が進んでいる。二海サーモンプロジェクトへの影響は？また、サーモン養殖事業を行う他自治体との連携の状況は？</p> <p>③ 当町と企業が出資するサーモン種苗生産法人設立に向けての進捗状況は？</p>	町長

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
3	佐藤智子	1. さらんべ公園のトイレ改修について	昭和39年に開園されたさらんべ公園は、八雲町の老舗の公園のひとつとして、昔から老若男女に親しまれ、愛されてきた公園である。 そんなさらんべ公園に最近行って残念に思ったのは、トイレが古く使い勝手が悪いのと、衛生的にも問題がある点である。住民の憩いの場であるさらんべ公園のトイレを改修すべきと思うがどうか。	町長
		2. 今年度の除雪対策は	(1) 高齢者等除雪費助成事業は、おおむね65歳以上を対象に町内の2事業所が依頼主から800円、町から800円、合計1,600円で、30分間の作業という内容であるが、需要に対して十分に応えられているか。 (2) 町営住宅の排雪や屋根の雪おろしは、高齢化が進む中、困難な世帯もあり、業者を頼むと高額で低所得者にはきついものがある。 町営住宅の住民と話し合っ、官民合わせた除雪対策を考えられないか。	町長
		3. 新幹線トンネル工事要対策土の仮置きについて	富咲Cに要対策土を運び込むために道路整備が進められるが、冬場の交通事情により、町内に仮置きする考えが機構から住民に対して打診があったと聞いている。 仮置きされるとして、その方法に地下水や周辺汚染の恐れはないのか。要対策土には、ひ素などの有毒物質が含まれている。工事現場に法律にのっとった毒物管理責任者は置くのか。また、仮置きする際に要対策土に消石灰を入れて中和すべきではないか。 上記のことについて町は、機構に確認しているか。	町長
		4. 自衛隊への名簿提供について	自衛隊の隊員募集に際し、22歳と18歳に該当する住民の名簿を自治体が自衛隊に提供していることが全国的に問題になっている。 八雲町役場に確認したところ、八雲町でも名簿を提供していたことが分かった。 対象者に了解を得ずに名簿を提供し続けることは、個人情報の保護に反することであり、中止しなければならないのではないか。	町長

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
4	赤井 睦美	<p>1. 情報共有が協働の第一歩！</p> <p>2. 人材の確保とまちづくり推進を多角的に！</p>	<p>自治基本条例の基本原則(2)情報共有の原則に、町民、議会及び行政は、まちづくりに関する情報を共有します。更に第2章 情報共有 情報共有の基本 第5条に、町民、議会及び行政は、互いにまちづくりに関する情報を伝えあい、情報の共有が町民主体の自治の根源であることを強く認識することを基本とします。と書かれ、情報の共有を図ることがまちづくりを行う上で重要であることを位置付けています。</p> <p>昨年の12月の定例会で情報共有・課題共有の必要性を一般質問し、「地域の課題解決や活性化を図るためには、住民の意見や提案をしっかりと受け止める体制作りが重要。今後は、各課が進める施策の内容にもよるが、若者が参加しやすい情報交換の機会や SNS等を活用したアンケート調査を導入するなど工夫を凝らす。」と答弁をいただきました。その体制づくりはすでに万全なのでしょうか？</p> <p>庁舎の基本設計が出来上がり、町民説明会や全員協議会で説明がありました。どんな提案も町民全員が賛成ということはありませんが、今回の説明会は『協働のまちづくり』の観点から見て、町長としての手ごたえは十分だったのでしょうか？</p> <p>また、協働のまちづくりの基本原則である『情報の共有』を考えると、町長が持っている情報と私たちに示される情報の量があまりに違い、共有がなかなか困難でした。</p> <p>町民皆さんが強く関心を示す内容に対し、このような対応では、町民の心は離れてしまうと思います。庁舎に限らず今後さらに協働のまちづくりをしっかりと進めるために、より丁寧な説明と情報共有のためのさらなる工夫が必要だと思いますが、町長のお考えをお伺いします。</p> <p>人口減少はいまいま始まったことではありませんが、役場を初め、ほぼ全ての企業や事業所で人手不足が起こっています。もちろん全国的に各自治体で人材確保は大きな課題となっています。ただ AI の進化により、自動運転の車やトラクター、各ロボットなどが実用化され、人手不足解消への動きは見えていますが、それも自治体や業界によって大きな差があります。</p> <p>昨年の12月の一般質問ですが、「NEC が地域貢献のため、ビジネスデザインやエンジニアリング等のスキルを持った職員が高校生や行政職員と一緒に ICT を活用して、まちづくりの話し合いと一緒に取り組んでいるので、NECに限らず行政と民間、そして高校生と一緒にまちづくりに取り組むといった方法を検討してほしい」という提案に、「熊石ではリングローと地域の人たちが、まちづくりに関わっている。また、高校生で</p>	<p>町長</p> <p>町長</p>

			<p>はないが熊石の若い人たちと議論を交わしながら、移住・定住についても考えている。NECの話も大変興味深いので、情報を得ながら一度訪問してみたいと思う。民間のいろいろな会社にアプローチしながら積極的にやっていきたい。更に今は企業版ふるさと納税『人材派遣型』というのもあるので検討してみたい」とのことでした。</p> <p>企業版ふるさと納税『人材派遣型』は、現在 83 自治体 30 社 102 人が活用され、1 企業で 58 自治体に 61 人の社員を派遣している企業もあるそうです。ある企業では、ICT に関わる知識を持った社員を「非常勤職員」として地方自治体に派遣し、約 9 ヶ月間(2021 年 6 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)、ICT を活用した地域課題の解決活動に従事させていたそうです。民間の知識や技術を活用し、人材の確保と充実を図り、関係人口の創出・拡大も期待できる取り組みをいろいろ検討して早急に取り組むべきだと思うのですが、八雲町の調査はどこまで進んでいるのでしょうか？</p>	
--	--	--	--	--

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
5	三澤公雄	1. 戦争をどう教えていくのか？ 身近な道内での出来事を教材として使えないだろうか？	この内容の質問を私は、平成26年の12月にしている。当時の答弁には、こうある「戦争について学ぶ機会は確保しているが、現在は社会科に限らず、「話し合い・考えさせる授業を！」と言われている。子ども達にどんどん議論させ、考えさせる授業づくりを教育委員会も含めて取り組んでいくことが必要と感じている。」という答弁だった。 さて、今現在はどのように取り組まれているのだろうか。私の調査の範囲では5人の中学生が訪問し学び、感じたことを校内で共有するという「広島・平和学習」だけに頼っているように見える。「広島」で学ぶことはまだまだあるだろうが、自分たちの住んでいる“北海道”では、どのようなことがあったのか。調べて議論して、と学ぶことのほうが有意義ではないだろうか。（例えば、戦争末期のソビエト軍の侵攻、樺太などでの地上戦の経験、函館空襲などは、八雲町民の戦没者もいらっしゃるのだから）	町長 教育長
		2. 局地的豪雨が散見される昨今、遊楽部川の現状で大丈夫か！？	「異常気象」という言葉に慣れてしまい、異常が「普通」という解釈すら当然の感じすらある昨今の雨の降り方に着目して質問をします。 八雲大橋、遊楽部橋、JR橋、立栄橋にかかる一帯の河畔林と中洲の状態を危険視する町民は多い。 北海道は予算の関係か、ほんの一部に手を着いただけで遅々としている。 今の進捗状況では、“目的達成”まで何年かかるのだろうか。町民が危険視する状況を少しでも早く解消すべきではないだろうか。	町長
		3. 要対策土の管理をもっと安心できるモノへ	安全と安心に関して耳目を集める事案が続発している。 蘭越町の蒸気噴出と処理水という汚染水の海洋放出である。これらの事柄に並べて表記されないように、改めて議論したい。 「要対策土」の置き場についての議論も機構の説明に“翻弄”されている感じがある。議会は一度振り返って、置き場の対策が十分かの議論を始めている。町も「機構が安全！」と判断したのなら安全だ」という立場から一度立ち返り、今の安全策が本当に安心につながっているのかを検証すべきではないだろうか？ よって、2点について伺います。 ① 「吸着」という言葉を使い「安心」させたが、実は「ろ過」で外部にわずかだが漏れだすという事実をどう考えるのか。	町長

			<p>② 東北新幹線での要対策土は二重シートでより安全性を担保しているのに、八雲は原地盤活用で漏れだすモノはモニターしているが、この違いについてどう考えるのか。</p>	
--	--	--	--	--